

2026年1月28日(オンライン)

神奈川県・IGES共催セミナー
「ネイチャーポジティブの実現に向けて」

都市に創られた里山が示すネイチャーポジティブ —自然と便益の“見える化”から考える回復と共生—

矢ヶ崎 朋樹¹⁾ ・ 譚 瀟洋²⁾

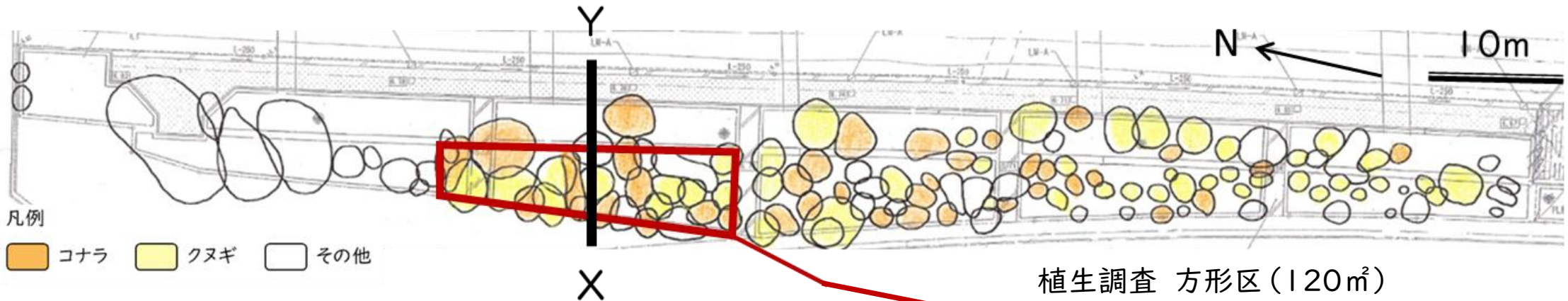
1) IGES 国際生態学センター(JISE) 上級主幹研究員 / 横浜国立大学 総合学術高等研究院 客員教授

2) IGES 生物多様性と生態系サービスユニット 研究員

- IGES-JISEが実施している研究成果や実践的な経験
- 都市のネイチャーポジティブ： 鉄道操作場跡地における里山創成の事例
- 自然と便益の“見える化”研究： “回復”や“自然共生”の意味を考える
- ネイチャーポジティブの実現に向けて私たちにできること（小括）



対象地の概要：新川崎ふれあい公園「体験の森」—鉄道操作場跡地における里山創成の事例

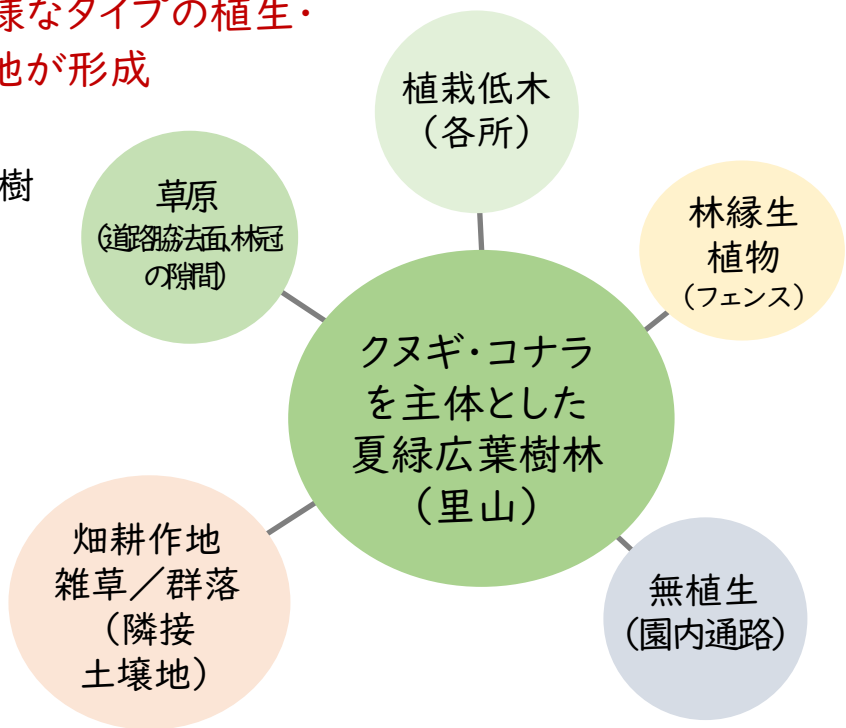


●多様なタイプの植生・立地が形成

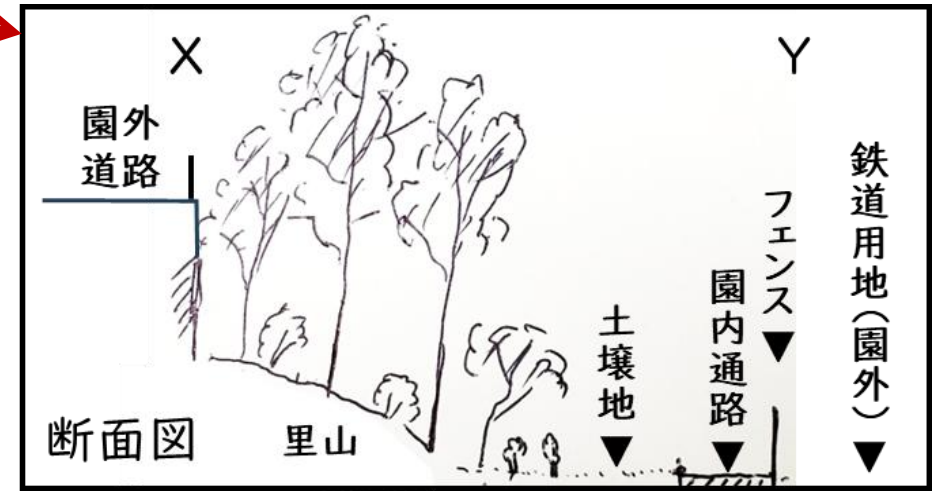
2011年植樹

2022年秋

2023年春



「体験の森(約1,300m²)」の構成



階層	高さ(m)	植被率(%)	植物種
高木層	11	80	クヌギ、コナラなど、計6種
低木層	4.6	10	カキ、ヤマブキ、ウグイスカグラなど、計15種
草本層	1.2	20	カンツバキ、ヒュウガミズキなどなど、計55種

都市に創成された里山緑地は、自然に触れることで人々が心理的安定を得て、地域でつながり、学び、行動が変わっていく“社会インフラ”である。ネイチャーポジティブ(NP)の先にある「自然と共生する社会」とは、こうした便益が日常的に得られ、次の世代へと循環していく社会である。その実現のために私たちは、自然を守るだけでなく、自然を使い、活かし、将来を見据えて新たにつくり、共に育ていく都市の仕組みを整える必要がある。そのためには、以下の取組が重要である。

公共用地(公園・校庭等)の総点検

未利用空間の自然を再生・活用し、世代・地域間の公平なアクセスを確保する。

地域と子どもの声を聴く仕組みの強化

地域創発型の自然活用／子どもの権利教育プログラムを統合的に推進し、利用者自身が場の価値を育てる循環をつくる。「体験の森」はそのひとつのモデルとなる。

回復植生や体験の価値の“見える化”と貨幣価値換算

自然が生み出す便益や体験の価値の理解を促し、ローカルな自然体験・学習プログラムの推進やNP資金メカニズムの構築につなげる。

NP起源の便益享受経験の共有・ネットワーク化

受益者同士のつながりを強め、非受益者を巻き込み、社会全体の行動変容へと広げる。

新川崎ふれあい公園
「体験の森」里山創成モデル
(経験、実績、ノウハウ)*

ランドスケープ描画法
(地域と子どもの声の
“見える化”)

生物多様性調査
みどりの貨幣価値換算
(i-Tree Eco モデル)

出典：千葉美佐子(2025)地域コミュニティによる生物学習の場づくりー都市の新たな里山創成のチャレンジ。JISE Report, 12: 19-22.

